

議員（兼若 幸一）

4番 兼若 幸一です。1つ、駅周辺設備について、2つ、現庁舎の今後について、3つ目、人口減少対策について一問一答方式でお願いいたします。

まず、駅周辺設備についてですが、近々に起きるとされる南海トラフ地震を想定し、耐震及び津波対策として老朽化した跨線橋を平成30年3月に自由通路として架け替えて4年が経とうとしております。また、バリアフリー化に伴うエレベーターの設置からも1年が経ちました。新庁舎が6月より開庁すれば、さらに多くの方が利用されるものと期待しておりますが、通路が汚れ、また防風壁のパッキンゴムが外れた状態も数か所見られております。自由通路及びエレベーターを合わせると十数億円もの建設費用が掛かっている施設の現状及び今後の施設のメンテナンス方法を教えていただきたいと思っております。

建設課長（三谷 勝則）

兼若議員の自由通路施設の現状と今後のメンテナンス方法についてのご質問に答弁をさせていただきます。

議員ご質問の本自由通路の町道432号線、幸見通りにつきましては平成30年3月より供用を開始しており、またエレベーターにつきましては昨年2月より使用を開始している施設になります。現在の施設の利用状況といたしましては、エレベーターの起動回数ではございますが、過去3か月の平均値で駅舎側が8,177回、パーク・アンド・ライド側が8,832回、1か月間で利用されている状況であります。議員ご指摘のとおり、供用を開始して以来、通路にゴミが散乱している、またエレベーターが汚れているなどの住民からの苦情をいただいている現状がございます。また、施設につきましても経年劣化により防風壁のパッキンゴムが外れたり、一部照明が点灯しないなどと通報があり、その都度修繕をしている状況でございます。現在、自由通路の清掃につきましてはシルバー人材センターに委託し、月に1回清掃をお願いしており、エレベーターの清掃については清掃業者に委託し、月に12回程度の清掃を行っております。また、エレベーターは法定検査が義務づけられておりますので専門業者に委託し、月1回の保守点検を行っているところであります。

今後の施設のメンテナンス方法につきましては、議員のおっしゃるように新庁舎完成後にはさらに多くの方の利用が予想されますので、利用状況を見ながら啓発活動や清掃回数を増やすなど対策を検討してまいりたいと考えております。また、自由通路施設につきましては町道橋であることから、法令により必要な知識及び技能を有する者によって5年に1回の頻度で点検を行う

ことが定められておりますので、適正に点検、修繕を実施してまいりたいと考えております。本施設につきましては、緊急時には避難路として町民の皆様が安全に安心して利用していただけるよう、施設全体のメンテナンスも含め引き続き、適正な維持管理に努めてまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

次、2つ目です。平成29年に多度津駅周辺の活性化に関する条例が制定され、駅周辺の開発整備等に関する在り方について議論し、令和2年3月に駅周辺開発整備計画が策定されました。そこで計画の中の西側駅前広場について、広大な鉄道敷地を借景にして町のアイデンティティーを表現するために現在設置されているSLのハチロクを利用しながら広場を造るように計画されていますが、ハチロクの現状はどのようなものか当然ご存じだと思います。国鉄OBさんが正月にはしめ縄を飾ったり、ボランティアで塗装したりしているとのことですが、ハチロクの本体自体も相当傷んでおり、雨よけのための建屋も錆が多く出ております。SLのハチロクの所有者、維持管理者はどなたになっていきますか、お伺いいたします。

総務課長（泉 知典）

兼若議員のSLのハチロクの所有者、維持管理者はどなたかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

多度津駅前に展示しております蒸気機関車の車両につきましては、所有者は四国旅客鉄道株式会社となっており、賃貸契約により多度津町が昭和44年から当時の日本国有鉄道より無償で借受け維持管理をしております。全国におきましても公園等に展示されております蒸気機関車の車両は、旧日本国有鉄道が1960年から1970年代にかけ、子供向けの教育用の展示資料として各自治体に無償で貸し出されたものでございます。現在、議員のおっしゃるとおり四国鉄道OB会香川支部多度津分会のご厚意により、年1回しめ縄の飾りつけ及び清掃を行っていただいております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

再質問をさせていただきたいと思っております。

具体的に町としての維持管理は何か対策はされていますか、お伺いいたします。

総務課長（泉 知典）

兼若議員の再質問にお答えいたします。

当時の賃貸契約内容にもありますように、教育施設ということもございませぬ。管理の方は一応総務課となっておりますが、あくまで無償貸与というこ

とでございますので、大規模な改修等はあまり考えておりません。今まで何度か国鉄OB会の方に塗料等を提供して、ボランティアで塗装等はしていただいております。今後もそのような塗装等の分につきましては、ペンキ等の提供はしていく予定ではございますが、今のところ大規模な改修予定の方は考えておりません。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

今後、広場の計画の中でも町のアイデンティティーを表現するには最大のモニュメントになる、このハチロクを半永久的に残していくには文化財として残していく合田邸と同様に専門家による調査を行い、修繕し、メンテナンスを行っていく必要があると思っておりますがいかがでしょうか。

教育課長（竹田 光芳）

兼若議員のハチロクを文化財として専門家による調査を行い、修繕し、メンテナンスを行う必要性についてのご質問に答弁をさせていただきます。

現在、国内において蒸気機関車そのものが指定文化財になっているものは国産初期のSLとしての貴重性から京都鉄道博物館にある230型233号機関車の1件のみで、国の重要文化財となっております。その他の多くは蒸気機関車に関連する駅舎や給水塔、倉庫などが登録文化財として保存されている事例はございます。現在駅前にある蒸気機関車C8620型に関しては昭和期に使用された車両で、教育委員会所有の多度津駅周辺の古写真にも同型の車両が走っている姿を見ることができますが、展示されている車両が多度津周辺を運行していた車両であるかという根拠がありません。また、讃岐鉄道初期の車両A1型、A2型、A3型でもないため、多度津の鉄道史を語るという文化財としての価値は低いと考えられます。併せて、塗料においても当時の塗装ではなく、駅前に設置後に行われた復元塗装とは異なる通常の塗装がなされてしまっているため、C8620型そのものの価値も減じていると考えられます。このようなことから、文化財として修理する対象とはならないと考えられます。しかしながら、議員ご指摘のとおり、本町のアイデンティティーを表現するために四国における初期の鉄道が敷かれたところの一つである本町においてはモニュメントとして重要なものの一つでありますので、SLの活用方法、メンテナンス等の方法を検討していきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

四国における初期の鉄道発祥の地、多度津としては、非常に何か悲しい限りのご答弁だったような気がします。

次の質問に移りたいと思います。

新庁舎が6月より開庁することになっておりますが、現庁舎はどのようになるのか、この跡地はどうするのかと町民から尋ねられます。今後についてどのように計画されているのか、お伺いいたします。

町長（丸尾 幸雄）

兼若議員の現庁舎の今後についてのご質問に答弁をさせていただきます。多度津町役場は昭和45年に竣工し、半世紀以上にわたり町政の拠点として住民の皆様におきましても親しみ深い場所となっているものと考えております。現在多度津町役場に隣接する県立多度津高等学校におきまして、県が校舎老朽化に伴う改築のための基本計画を作成中であり、町役場移転後の跡地の取得も選択肢の一つとして検討している段階でございます。本町といたしましても、教育の充実及び向上を図ることを目的に地域に根差した地元の県立高等学校に町役場跡地を有効に活用していただくことも選択肢の一つとして想定しております。

今後につきましては、県立多度津高等学校の改築計画における方針を含め、地域における公共福祉の増進や地域社会への貢献等を十分に考慮した活用を検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

今、町長からご答弁をいただきました。その中に、最後の方に地域における公共福祉の増進や地域社会への貢献等を十分に考慮した活用も検討してまいりたいというご答弁がありましたが、多度津高校に売却する以外に何か具体的な案があるのでしょうか。今ご答弁できる範囲で結構ですので、よろしくお伺いいたします。

町長（丸尾 幸雄）

今お話し申し上げましたこと以外に具体的なものはまだ出ておりません。ただ、色んなことを想定しながら地域の町民の皆様の福祉の向上や、また活性化、そういうことを考えていきながら色々な手段、利用方法があるんじゃないかなということを多角的に今検討をしているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

有効活用を是非とも考えていただきたいと思います。

次の質問に移りたいと思います。

人口減少対策についてですが、令和2年10月1日現在で実施された令和2年国勢調査の人口等基本集計の結果が令和3年11月30日に総務省統計局から公表されました。香川県では前回平成27年から全ての市町で減少し、2万6,019人減の全人口95万244人になりました。多度津町では921人減少して、2

万2,445人となりました。県下では人口減少対策として移住促進補助金、新築補助金、医療費無料化、給食費無料化などの施策を実施していますが、多度津町での人口減少対策の施策とその効果についてお伺いいたします。

政策観光課長（河田 数明）

兼若議員の人口減少対策についてのご質問に答弁をさせていただきます。

令和2年国勢調査による我が国の人口は1億2,614万6,000人と1920年の調査開始以来、初の人口減少となった前回の平成27年調査の人口1億2,709万5,000人から引き続き減少しております。都道府県別に見ますと、8都府県を除いた39道府県において人口減少が見られます。本県におきましては、県内の8市9町全ての自治体で前回調査から人口が減少し、人口減少数、減少率ともに過去最大となっております。前回調査からの減少率は、県全体では2.7%となっており、本町における減少率は3.9%となっております。国勢調査の結果にも現れておりますように、人口減少は香川県内のみならず全国的に喫緊の課題であり、人口減少傾向の抑制と人口減少社会への適応を目的とする地方創生への取組を国と地方が一丸となって、さらに推進していくことが重要であると考えております。国立社会保障・人口問題研究所の推計結果では、本町の総人口は2060年時点で1万7,990人になると予測されており、今後はさらなる人口減少の加速が懸念されております。

このような中、本町では令和2年3月に策定いたしました多度津町人口ビジョンにおいて2060年の目標人口を2万300人と設定し、令和4年度施政方針にもありますとおり、同時期に策定いたしました第2期たどつの輝き創生総合戦略に基づき、たどつのゲンキを創る、たどつとツナガル人を増やす、たどつにスマイ人を増やす、たどつのミライに向けて挑戦するの4つを基本目標に各種の人口減少対策や定住促進施策に取り組んでおり、具体的な取組といたしましてはタウンプロモーション事業や出会いの場創出事業、移住・定住促進策の検討などの60事業がございます。これらの事業に取り組む中で成果目標とKPIを定め、町長を本部長としたたどつの輝き創生本部及び民間の方などで構成するたどつの輝き創生戦略会議で効果、検証を行っており、全ての事業において毎年度進捗状況の確認を行いながら、人口減少対策の推進を図っているところでございます。

また、今後、人口減少社会がもたらす様々な課題は行政だけの力で解決できるものではなく、民間企業をはじめ、多様な主体が一丸となって取り組んでいくことが必要であると考えており、官民連携による地方創生の一層の推進のため、定住に至らないものの特定の地域に継続的に多様な形で関わる関係人口の創出や拡大など、新たな視点からの対策として令和4年2月25日からスマートフォン用アプリ、まちのコインの運用を開始いたしました。まちの

コインを活用することにより地域活動や伝統行事への若い世代の参加促進、町内事業所や団体等と消費以外の側面に関わる町内外の人々の増加に繋がると考えております。

今後も人口減少社会がもたらす様々な課題の克服に向け、第2期たどつの輝き創生総合戦略に基づく各種施策に積極的に取り組み、持続可能なまちづくりと、たとえ人口が減少しても住民の方々が笑顔で暮らせる環境づくりを推進してまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

ただいまのご答弁に再質問をさせていただきたいと思っております。

たどつの輝き創生総合戦略に掲げる取組のうち、移住・定住促進策について具体的な事例を幾つか上げてご答弁いただきたいと思います。

政策観光課長（河田 数明）

ただいまの再質問に答弁をさせていただきます。

第2期たどつの輝き創生総合戦略に掲載しております60事業のうち、町内への移住・定住を促進するための事業として実施しております移住促進家賃等補助金と空き家改修支援事業補助金を例に答弁をさせていただきます。

それぞれの補助金の令和3年度の実績は、移住促進家賃等補助金につきましては、当初予算枠3件に対し5件の申請がございましたので、補正対応をしております。また、空き家改修支援事業補助金につきましては、予算枠4件に対し4件の申請がございました。たどつの輝き創生総合戦略の中で、これらの事業に関連するKPIとして掲げておりますのが、県外からの移住者数の累計でございます。計画を策定する際、平成30年度における県外からの移住者数11名を基に令和2年度から令和6年度までの累計移住者数として50名を目標として掲げております。現行の戦略に掲載している事業の活用状況、KPIや成果目標の達成状況につきましては、毎年度状況の確認を行っているところでございますが、令和4年度は第2期たどつの輝き創生総合戦略の中間年度となりますので、新たな取組なども検討する中で戦略の一部改訂を行い、さらなる人口減少対策に取り組んでまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

有難うございました。

人口減少対策については、ご答弁にもありましたように全国的な課題であります。他自治体と同じような取組をしていたのでは、なかなか本町の人口増には繋がらないのではないのでしょうか。何か多度津町に住みたくなるような、他の自治体にはない目玉となる移住・定住支援施策を立ち上げて実施す

べきと思いますので、執行部だけでなく、我々議員からも提案をして人口減少対策にぜひ取り組んでいければいいなと思っております。

以上で、私からの一般質問を終わります。有難うございました。